

## たましんレポート2013 用語解説集

たましんレポート2013をよりわかりやすくお読みいただくため、用語の解説を記載いたしました。

### あ行

#### 1 インキュベーション施設

新たなビジネスを始めようとしている人や企業に対し、不足する資源（資金、オフィス、ソフトなど）を提供し、その成長を促進するための施設のこと。施設の入居には一定の審査が必要な場合もありますが、安価な家賃で使用できることや、金融相談・技術相談・経営相談等の各種支援施策を受けることができます。

→ p. 5、7、42

#### 2 インフラ（インフラストラクチャー）

交通、通信、電力、水道、公共施設など、社会や産業の基盤として整備される施設のこと。社会基盤ともいいます。

→ p. 2、3、4、8、9

#### 3 エコビープル

「eco検定」の受験合格者で、幅広い環境問題に対する基本的な知識を有し、そこから生まれる問題意識を日常の行動に活かそうとしている人のこと。

エコビープルが集まり、環境問題に関連する勉強会を自主的に行う等の活動も行われています。

→ p. 18

#### 4 ALM (Asset Liability Management)

資産と負債の構成、例えば銀行であれば、全ての預金や貸し出しの金利・期間を把握し、将来の金利の変動を予測し、それを踏まえたうえで、リスクの最小化と収益の極大化を図るリスク管理の手法のこと。

→ p. 24、32

#### 5 オペレーショナル・リスク

不適切な事務やシステムのトラブル等の要因により損失を被るリスクのこと。

オペレーショナル・リスクには事務リスク、システム・リスク、その他のリスクが含まれます。

→ p. 24、32

### か行

#### 6 貸倒引当金

融資金の回収ができないことを予想して、そのために引き当てておく金額のこと。

正常先・要注意先の債権の区分ごとに計上する引当金が**一般貸倒引当金**、破綻懸念先、実質破綻先、破綻先の個別債務者ごとに計上される引当金を**個別貸倒引当金**といいます。

→ p. 23、24、25

#### 7 環境マネジメントシステム

環境方針、目的・目標などを設定して、その達成に向けた取組みを実施するための組織の計画・体制などのこと。

→ p. 17

#### 8 金利リスク

将来の金利変動によるリスクのこと。

債券投資においては固定金利商品の場合、市場金利が上昇することで、その商品が生み出す金利（キャッシュフロー）が相対的に下がることによる債券価格の低下などがあげられます。

また、融資を受けたケースでは、変動金利の場合、将来の金利上昇による返済額増加などが金利リスクになります。

→ p. 24

## さ行

## 9 建設企業のための経営戦略アドバイザー事業

建設業の経営上のさまざまな課題に関する相談に対して、建設業に精通した中小企業診断士などがアドバイスを行うこと。

→ p. 5

## 10 広域イーサネット

公共の通信回線を自社専用線であるかのように用いることのできる大型ネットワークのこと。  
ネットワークの標準的なLAN技術として普及しているネットワーク網を利用して、各拠点間を接続することが可能です。

→ p. 35

## 11 コミュニティ・ビジネス

地域の課題を地域住民が中心となってビジネスの手法を用いて解決する取り組みのこと。  
組織形態は個人、会社組織など多様であり、活動分野もまちづくり、環境、介護福祉などあらゆる分野に広がりをみせています。

→ p. 4、6、17、19

## 12 コンプライアンス

社会規範や法令遵守のほか、業界団体のルール、金庫内の規程等の諸ルールに従い、厳正に遵守すること。

→ p. 29、31、34、35、37

## 13 再生可能エネルギーの全量固定価格買取制度

再生可能エネルギー源(太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス)を用いて発電された電気を、国が定める固定価格で一定の期間、電気事業者に調達することを義務づけるもの。  
2012年7月より始まりました。

→ p. 18

## 14 事業承継

会社(事業)を現在の経営者から他の人(後継者)へ事業の引継ぎを行うこと。これまで経営者として保有・管理してきた様々なものを後継者へ譲り渡すこと。

現在の経営者が自分の子どもに後を継がせる「親族承継」が一般的でしたが、最近では従業員や社外の後継者など第三者への承継やM&Aの活用も行われています。

円滑に承継をするためには後継者の教育や株式の譲渡を行うことや、相続財産の評価などの相続対策などが必要です。

→ p. 6、7、18、35

## 15 市場リスク

金利、有価証券価格、為替など市場で取引される商品の価格変動により、資産・負債の価値が変動し損失を被るリスク、及び収益が変動し損失を被るリスクのこと。

→ p. 24、32

## 16 システムリスク

コンピュータシステムの障害による停止または誤作動により損失を被るリスクのこと。

→ p. 32

## 17 事務リスク

役職員が正確な事務処理を怠る、あるいは事故・不正等を起こすことにより損失を被るリスクのこと。

→ p. 32

## 18 信用リスク

与信先や信用供与先(発行体など)の財務状況の悪化等により、資産(オフ・バランス資産を含む)の価値が減少あるいは消滅し、金融機関が損失を被るリスクのこと。

→ p. 24、32

## 19 スキーム

体系立てられた枠組み、計画。  
 企業の事業計画は、事業の枠組みを表す計画でもあることから、事業スキームとも呼ばれています。

→ p. 10

## 20 早期警戒制度

金融庁が、金融機関の経営状況を把握し、自己資本比率の悪化などが見られる場合に早い段階で是正措置をとる制度のこと。  
 金融機関に収益性や資産内容などの報告を求め、収益性、信用リスク、市場リスクや資金繰りについて経営改善が必要と思われる場合、銀行法第24条等に基づき報告を求めることを通じて、経営改善を促すものです。

→ p. 24

## 21 その他のオペレーショナル・リスク

- ・ 評判の悪化や風説の流布などにより損失が発生する風評リスク
- ・ お客さまに対する義務違反や不適切な取引などから損害が発生する法務リスク
- ・ 災害などにより有形資産に毀損・損害が発生する有形資産リスク
- ・ 規律違反・不祥事件、人事運営上の不公平・不正やハラスメント等の差別的行為、就業環境の悪化などにより発生する人的リスクの4つをさします。

→ p. 32

## た行

## 22 TTMLレート

お客さまが金融機関で外貨を売買する際の基準となるレートのこと。たましんでは毎日10時頃にこのレートが発表されます。

→ p. 21

## 23 統合的リスク管理

各リスクを種類ごとに評価し、それを総体的に捉えたものと自己資本を対比することにより、健全性、収益性、効率性を評価する、自己管理型のリスク管理のこと。

たましんでは、信用リスク、市場リスク、流動性リスク、オペレーショナル・リスク(事務リスク、システム・リスク等)を統合的リスク管理の対象としております。

→ p. 24、31、32

## な行

## 24 内部統制管理

各リスクを種類ごとに評価し、それを総体的に捉えたものと自己資本を対比することにより、健全性、収益性、効率性を評価する、自己管理型のリスク管理のこと。

たましんでは、信用リスク、市場リスク、流動性リスク、オペレーショナル・リスク(事務リスク、システム・リスク等)を統合的リスク管理の対象としております。

→ p. 31

## は行

## 25 ビジネスマッチング

組織の業務の適正を確保するため、その組織の内部において適用されるルールや業務プロセスを整備・運用すること。

→ p. 6

## 26 評価益

株式などの有価証券が、買ったときの値段(簿価)から値上がりして、現在の値段(時価)の方が高くなっているときのその差額のこと。

反対に買ったときの値段(簿価)より現在の値段(時価)が低くなっているときの差額は**評価損**といいます。

→ p. 26

## 27 ポートフォリオ

多種類の銘柄や金融商品の組み合わせのこと。  
一般的に、資産運用において、ポートフォリオは運用資産(保有資産)の構成状況(組み合わせ)のことを意味し、その中身は預貯金、株式、債券、投資信託、REIT、外貨預金、外国株式、金など実に様々なもので構成されています。  
ポートフォリオにおいては、全体の収益性(リターン)や換金性(流動性)を考えて、金融商品をいかにうまく組み合わせるリスクを管理しながら運用(分散投資)するかが重要であるといえます。

→ p. 26

## ま行

## 28 マネーローンダリング

不正取引で得た資金や企業の隠し資金を、金融機関との取引や口座間を移動させることによって、資金の出所や流れをわからなくすること。資金洗浄ともいいます。

→ p. 35

## や行

## 29 与信集中リスク

貸出が特定の業種への集中することで生じるリスクや大口与信先に対するリスクのこと。  
たましんの場合、金庫の経営に対して大きな影響を及ぼす可能性のある大口与信先について、与信限度額を設けています。

→ p. 24

## ら行

## 30 ライフステージ

人の人生を少年期・壮年期・老年期などに分けた、それぞれの段階のこと。

→ p. 11、15、16

## 31 リスク許容度

元本保証重視や利益性重視、値上がり益を追求する、など自分の投資についての考え方にに基づき、分配金や利益の大きさに対して元本割れとなるリスクの大きさをどのくらい許容できるかの度合いのこと。

一般に高いリターンを求めるならば、高いリスクを許容する必要があり、一方でリスクをとらくなければ、低いリターンを受け入れるべきとされています。

リスク許容度が大きければ大きいほど、積極的に値上がり益を得るために、元本割れとなるリスクが大きくても投資に対して積極的な姿勢を示すといわれています。

→ p. 16

## 32 流動性リスク

市場の混乱により必要資金が確保できない場合や、通常より著しく高い金利での資金調達を余儀なくされるリスクのこと。

→ p. 32